

平成14年度収蔵作品(購入8点／受贈1点)

No.	作家名	作品名	制作年	寸法	素材
	【購入】				
1	アルマン	「ダマスカスの婦人の腰」	1974年	164×124×13cm	コントラバス、弓、コンクリート
2	中村一美	「聖」	1987年	260×540cm	油彩・カンヴァス
3	辰野登恵子	「Work79-P-15」	1979年	194×260cm	油彩・カンヴァス
4	辰野登恵子	「Work84-P-7」	1984年	259×194cm	油彩・カンヴァス
5	辰野登恵子	「MEM-K8」	1975年	68.2×94cm	シルクスクリーン・和紙
6	辰野登恵子	「Work K-24」	1976年	70×92.4cm	シルクスクリーン・紙
7	辰野登恵子	「Work K-30」	1976年	76.4×87cm	シルクスクリーン・紙
8	小山穂太郎	「無題」	1986年	110×170cm	ゼラチン・シルバープリント、漂白(7点組)
	【受贈】				
1	中村一美	「破庵(いわき破庵)」	2002年	315×260×425cm	木、ボルト、石

◇アルマン:1928年フランス生まれ。60年代における重要な美術運動であるヌーヴォー・レアリズムを代表する作家。イヴ・クラインとも密接な関係を結び、その意味でも当初から収蔵が望まれていた。

◇中村一美:1956年千葉市生まれ。中村も体系的な作品の収蔵が図られており、「聖」は初期の代表作である。

◇辰野登恵子:1950年長野県生まれ。80年代以降の絵画を代表する作家の一人。体系的な収蔵が検討されており、今回は初期及び中期の代表作が収蔵された。

◇小山穂太郎:1955年東京生まれ。80年代以降登場する美術と写真との関係を問う作家として注目を集めている。2002年栃木県立美術館において個展開催。